

『私の宝物』

愛媛県

愛媛建武館

小学6年 新倉小夏

試合前。深呼吸をして先生の言葉を、思い出す。それをイメージしながら、自分に「勝つぞ。」と気合を入れて整列する。スイッチが入るように、きん張が消えて集中力が高まっていく。私の大好きなしゅん間だ。

私が剣道を始めたのは一年生になった春だ。ぜん息や肺炎をくり返す私を心配した母に連れられて、道場に見学に行った。バシンッバシンッと激しく竹刀のぶつかる音や力強いふみ込みの音、大きな声やスピードに目をうばわれた。「かっこいい」すぐに剣道を始めたいと思った。

激しく戦うスポーツだと思っていたが、まず教わったのは、剣道は礼に始まり礼に終わるという言葉だった。相手を敬う心や、相手の立場に立って考えること。とても大切な事を教わった。剣道がかっこいいと思ったのは心もきたえているからだと思った。ますます剣道が好きになった。

初めて付けた防具は、重くておどろいたけどそれ以上にワクワクが止まらなかった。早く強くなりたくて、一生けん命練習した。

低学年の頃は、時々体がしんどかったり、何となく気持ちが重くなる時もあった。でも道場のドアを開け「こんばんは。」と大きな声であいさつすると、急に気持ちがひきしまりやる気がでた。

「つかれてしんどい時にやれば強くなる。」

と、先生に言われた。しんどい時ほど、大きな声を出すようにした。すると、力がわいてくるような気がして、もうひと頑張りできるようになった。

試合の時に一番気をつけていること。それは、気持ちでは、絶対に負けないということだ。一年生の時に先生から手紙をいただいた。そこに「声も大きく出ているし、先生は小夏の前へ前へ出ている剣道が大好きです。」と書かれていた。とてもうれしかった。負けたくない、勝ちたいという気持ちで、大きな声を出すようになった。

高学年になると、先鋒で試合に出ることが多くなった。一番手の先鋒。絶対に勝ってきたくて、とにかく声を出した。前へ前へ出てたくさん技を出すようにした。しかし、うまくタイミングが合わなかったりバタバタするだけで、なかなか一本を取ることができなかった。あせればあせるほど、うまく当たらず気合だけ空回ってしまっていた。くやしくて落ち込んでいると、先生に、

「かまん。攻めて負けたんやから。声も出さずに負けるよりはええ。あせらんでええ。」と言われた。その後も試合のたびに

「あせるな。あせるなよ。」

と言われた。

私は、勝ちたくて早く一本取りたくて、動くタイミングが早かったり、遠すぎる間合いからでも打っていたのだ。

そこに気付いた私は、なるべく落ち着いて集中するようにした。打ちたくて打ちたくて仕方ない気持ちを押さえて、ピッタリのタイミングで打った面が入った時、最高に気持ちがよかった。うれしくて先生を見ると、うなずいてくれた。つらい思いをたくさんしたからこそ、喜びは大きかった。

剣道を通じてきて、もう一つよかったと思うことは、たくさんの仲間ができたことだ。強い先輩方と練習ができたおかげで、どんな相手でも恐れず立ち向かえるようになった。同じチームの仲間とは、はげまし合いながら一緒に強くなれた。みんなで勝った時のあの喜びは、剣道をやっていないと味わうことができなかつたと思う。また、他の道場にも友達ができる。ライバルの選手を目標に、練習にもさらに気合が入る。毎回その仲間達に大会で会うのが楽しみだ。

剣道を通して、私は礼の大切さを学び、集中力や強い心、沢山の仲間を得た。これら全て大切な宝物だ。これからもずっと、大好きな剣道を通じて、心も体も剣道も強くなっていきたい。